

Institute for Economic Studies, Keio University

Keio-IES Discussion Paper Series

**On the Source of Seasonality in Price Changes:
The Role of Seasonality in Menu Costs**

宗像晃、篠原武史、白塚重典、須藤直、渡辺努

2023 年 11 月 21 日

DP2023-016

<https://ies.keio.ac.jp/publications/23228/>

Keio University



Institute for Economic Studies, Keio University
2-15-45 Mita, Minato-ku, Tokyo 108-8345, Japan
ies-office@adst.keio.ac.jp
21 November, 2023

On the Source of Seasonality in Price Changes: The Role of Seasonality in Menu Costs

宗像晃、篠原武史、白塚重典、須藤直、渡辺努

IES Keio DP2023-016

2023年11月21日

JEL Classification: E31, E32, E37

キーワード: POS データ、価格変動の季節性、ニューケインジアンモデル、メニューコスト

【要旨】

季節性は物価変動の最も顕著な特徴の一つであるが、数量の季節性や物価変動の景気循環的要素に比べると、その分析は著しく少ない。このギャップを埋めるため、日本の199カテゴリーの商品のスキャナーデータを使用し、1990年から2021年までの価格変動の季節性を実証的に研究する。分析結果からは、以下の4つの特徴がほとんどの品目分類で確認できる。(1)物価上昇・下落の頻度は3月と9月に上昇する、(2)物価変動の頻度に関する季節成分は物価変動の大きさの季節成分と負の相関がある、(3)インフレ率の季節成分はネットでみた物価変動の頻度の季節成分と一致する、(4)物価変動の頻度の季節パターンは物価変動の大きさの季節パターンに比べて安定している。しかし、このパターンは、その年の品目分類レベルの年間インフレ率の変化に反応する。次に、簡便な状態依存価格モデルを用いてシミュレーション分析を行い、メニューコストの季節的サイクルが、データで観察される価格変動の季節性を生み出す上で本質的な役割を果たしていることを示す。最後に、メニューコストの季節的サイクルの特性とマクロ経済変動への影響について議論する。

宗像晃

日本銀行金融機構局

kou.munakata@boj.or.jp

篠原武史

日本銀行金融研究所

takeshi.shinohara@boj.or.jp

白塚重典

慶應義塾大学経済学部

shigenori.shiratsuka@keio.jp

須藤直

日本銀行金融研究所

nao.sudou@boj.or.jp

渡辺努

東京大学大学院経済学研究科

watanabe@e.u-tokyo.ac.jp

謝辞: 本論文の作成にあたっては、青木浩介、藤本淳一、M. Hsu、伊藤隆敏、松本英彦、M. McMahon、P. Porapakarm、R. Schoenle、新谷元嗣、戸村肇、上田晃三、M. Wynneの各氏、ならびにGRIPsのセミナー参加者、2023年BOJ-IMESコンファランス「金融政策の古くて新しい課題」およびSWETへの参加者、日本銀行スタッフから貴重なコメントを頂戴した。記して感謝の意を表したい。ただし、本論文で示されている意見は、筆者たち自身に属し、日本銀行の公式見解を示すものではない。本論文は以前「日本における季節的サイクルと物価変動の同期化」として配布されている。